



Book review



「中医基本用語辞典」

高金亮 監修
A 5判ビニールクロス装・函入り
872頁 8,400円 (税込)
東洋学術出版社

評・篠原昭二
(明治鍼灸大学東洋医学基礎教室教授)

内容までどんどん網羅されている。『針灸学 [基礎篇]』(東洋学術出版社刊)が、テキストあるいは参考書として用いられていることであろうが、この用語辞典とともに応用すれば、難解な中医学理論や用語を理解するにはうってつけの良書と思われる。

本学では、1年生の前期から専門科目の1つである「東洋医学概論」が開設されている。高校まで手取り足取り丁寧に教わっていた学生たちにとって、これまでの現代医学(科学)や生物学で習ってきたことと大きく異なるこの科目は、カルチャーショックに匹敵する内容を多分に包含している。

西洋学術的な科目であれば、それなりに理解できるとしても、東洋学術的な「陰陽論」「気」の概念「蔵象学説」となると、陰陽、五行、気血、虚実……など、見たり聞いたりしたことのある言葉が使われてはいるものの、その意味を理解するのは、並大抵のことではない。そして、この段階で理解できない学生たちは、診断学や臨床学を学ぶ段階になると、まったく理解不能になってしまいかねない危険性がある。

今回、東洋学術出版社から発刊された『中医基本用語辞典』は、これから伝統的な東洋医学理論を学ぼうとする学生や、初学者にとって、待望の書と思われる。「陰陽」の項目を見るだけで、陰陽の定義に止まらず、陰陽学説、陰陽五根、陰陽消長……といった具合に、関連する

また、臨床においても十分活用可能である。例えば、「鬱(うつ)」は日本語的には、「気がふさぎ、晴れ晴れとしない……」という意味であり、心がすっきりせず、楽しめず、消極的な意味合いで捉えられるのが一般的である。一方中医学的には、「情志の失調により、気機が鬱滞して……多くは実証に属する」とされている。この辺が日本的な考えと中医学用語を理解するうえでの大きな誤解の元となっているのである。

これから中医学を学ぼうとする人、今まさに臨床で中医学を応用しようとしている人も、いっそうの理解を深める意味で読んでいただきたいものである。

不満をいうならば、中医用語の中でよく使われている「疏泄^{そせつ}」「宣發^{せんぱつ}・宣散^{せんさん}」「肅降^{しゅくこう}」といった用語が欠落している点である。単純に「疏泄」では引くことができず、「肝主疏泄」「肺主肅降」といった具合に、蔵象学説を理解していなければ引けないような状況である。できれば、「疏泄」→「肝主疏泄」といった配慮が欲しいところである。